

## サハリン フェーズ2 プロジェクトの陸上パイプライン<sup>1</sup>の敷設に関する問題点

2004年11月25日 作成 FoEJapan

### 川に生息する種のベースラインデータに関して

SEIC 自ら環境影響評価 (EIA) の中で触れているように、漁業資源のデータは商業的な価値のあるものに限られており、そうではない種のデータはほとんど取り上げられていない。つまり、「漁業資源」に関するベースラインデータが不十分である。ロシア連邦のレッドデータブック (希少種) に記載されているサハリンタイムン (イトウ) の生息地すら正確に把握されていない。ロシア政府の指示によって 2003 年秋に実施された SEIC の現地調査は、180 本の河川を対象に行われたが、その半数の川において、現在どのような種の生物が生息しているのか記載がなかった。1999~2002 年に SEIC の調査に参加した専門家は、質の高い調査を実施するには SEIC のやり方では問題があると指摘している。専門家の中には、自らが調査を行った川の生物種のデータが、SEIC の記録には反映されていなかったと証言するものもいた。

**融資を検討するにあたって、川に生息するサケやその他の生物の「信頼性があり、完全なベースラインデータ」は不可欠である。**

### パイプラインと河川交差に関して

ロシア政府の指示によって 2003 年秋に行われた「パイプラインの河川交差に関する現地調査報告書」を見ると、サハリンレポート (サハリン漁業管理局) は 29 本の水路において高架パイプラインを使用するよう勧告している。また、同報告書のロシア語版では、調査を行った専門家が 24 本の水路で高架パイプラインを使用するよう勧告している。しかし、英語版の同報告書では、なぜか「24」という記載が「18」の水路と言い換えられている。このトランスアラスカパイプラインでも使用されている高架パイプラインは油漏れを一早く検知し、対応することができる。地中での油漏れは地面に油が到達するまで気がつかない。少量の油であってもサケが産卵する河川に流出すれば、サハリンのサケの生息や商用漁業に多大な影響をもたらす。現在 SEIC はこうした環境への影響の緩和策を検討していない。**環境・社会への影響を回避・最小化するような代替案や緩和策が検討されていない。また、調査報告書において「書き換え」などが見られているのは非常に問題である。**

### 河川交差とサケの産卵に関して

EIA では河川交差工事は 10 月から 3 月の冬の間に行われるとある。これはサケの産卵時期ではないが、稚魚の胚が川床の砂利の中 (産卵場所) で育つ時期だ。つまり、胚は冬の間、建設工事による土砂堆積の影響を受けることになる。先の現地調査では、180 本の河川

<sup>1</sup> サハリン II 第二期工事は、島を縦断する 800 キロメートルのパイプラインを敷設することを計画している。このパイプラインは生態学的また経済的に極めて重要なサケなど多種が生息する 1,103 本の河川を横切るといわれている。先住民民族ニブチ族らの文化とは切り離せない、また地方経済を支える豊かな漁場をたたえている川である。また、パイプラインは 22 の地震の活断層をも横切る。

のうち、121本のパイプラインが交差する場所かその近く（上流50メートル、下流100メートル以内）でサケの産卵場所が見つかった。アラスカではこのような建設は禁止されている。可能な解決方法として、交差する場所を変更することが考えられるが、今回の現地調査では、こうした代替案は検討されていない。そうした限られた調査の中であっても、調査員は33箇所の交差地の変更と24本の高架パイプラインの設置を勧告している。

**同プロジェクトはロシア政府の認可を得ているとはいえ、野生生物に関するロシア連邦法やその他の規制では、産卵場所や越冬場でのパイプラインの建設は明確に禁止されている。これはロシア法律違反のみならず、最良事例などの慣行を侵害するものである。**

### 建設業者に関して

国際最高基準を取り入れるには、パイプラインのデザインだけでなくその基準を実行する建設業者にかかっている。トランスアラスカパイプライン建設中にも溶接X線の改ざんなど品質管理に関わる問題が生じ、パイプラインを広範囲に掘り起こし再設置するケースがあった。ロシア建設業者による手抜き工事などがいくつかロシアで報道されている。時間や金銭的なプレッシャーからこうしたことも十分に起こりうる。こうした事体は、独立した第三者機関がパイプライン建設のモニタリングを実施することによって防ぐことも可能である。

**建設現場でのモニタリングや評価が必要。JBICや他の融資機関は、独立した第三者によるモニタリングを融資条件に加えるか、実際にこうしたモニタリングを実施するべきである。**

### 油流出対応計画に関して

**油流出対応計画(OSRP)は、サケやその他の種へのリスクを決定する重要なものである。OSRPが公開されない時点で、パイプラインによる環境への影響を完全に評価するのは不可能だ。**

### 密漁について

パイプラインやそのアクセスロードが建設されることによって、サケの密漁の可能性が広がる。サハリンでは密漁は頻繁に行われており、同プロジェクトがサハリンの豊かな漁業資源に影響を与える原因の一つともなりうる。**SEICはサハリン州などと協力して、モニタリングチーム作成など手立てを検討するべきだ。**

### 野生生物との関連について

サハリンには希少な野生生物が多数生息しており、魚類を捕食する鳥類や湿原に生息する生物などへの影響が懸念される。**水系の生態系への影響は、野生生物へも多大なる影響を及ぼす。パイプライン建設において、自然環境に対する包括的な視点からの調査が必要である。**

(The Wild Salmon Center 作成資料など参照)